



# 那覇市立教育研究所

所報第5号

平成22年9月 7日

那覇市金城3-5-3

所長 池間生子

## 中核市那覇市の 教育のシンボルに?

所長 池間生子

平成二十五年度には、中核市那覇市の誕生の予定である。

中核市に移行した場合、研究所に委譲されてくる県費負担教職員の研修は、「初任者研修」「十年経験者研修」をはじめ、それらに伴う研修等がある。

現在、那覇市立教育研究所で行われている研修は大きく三つに分けることができる。一つは、調査研究に伴う研修、二つ目は、年間七名入所してくる研究員対象の研修、三つ目に、学校の教職員のニーズに応えるための研修等である。

前年度は千百名程度の研修会への参加があった。年間七十回を超える研修会を運営するに当たり、三十名を超える研修会ほとんどを、保健センターの大ホール、真和志支所の三階ホール、若狭公民館のホールを借用して行ってきた。

教職員の資質の向上を図り、児童生徒の学力向上につなげていくことは学校教育を推進していく上で、児童生徒の安心・安全と共に重要な取り組みである。その、那覇市の教職員の資質の向上を図るための研修会を、会場の借用如何によって開催時期や参加人員が左右されることなく充実したものにするため、ホールを兼ね備えた施設が必要不可欠である。

中核市那覇市の教育のシンボルとして生まれ変わるためにも、施設の充実が重要である。夏季実践講座を終了し、前期の研究員生の修了を間近に控え、後期そして次年度に向けて動き出す時期となった。学び続ける教職員の拠り所となれる研究所をめざしつつ、中核市那覇市の教育のシンボルとなるためにも何をしなければならぬのか考えていきたい。

## 第94期教育研究員

## 検証授業

那覇市立天妃小学校 赤嶺栄達

6/29

「主体的に運動に親しみ、自ら考え、工夫する力を育てる授業づくり」  
～ソフトバレーボールにおける学び合いを通して～  
5年3組 「ソフトバレーボール」



普段の生活の中で運動機会が少なくなっている実態から、意欲的に運動に取り組む児童像を目指して、学校体育の中で友達と関わりながら運動する楽しさや喜びを味わわせ、自ら考え、工夫する力を育てる研究を進めてきました。検証授業では、基本の運動から、話し合い、グループでの練習、ゲーム、まとめという授業展開の中で、子どもたちは意欲的に活動しました。成果としては、学習過程を工夫し、友達と楽しさを共有することで運動意欲が高まったということと、短い授業計画の中ででしたが、子ども達が自分なりに考え、工夫して活動できたことです。また、課題として残った部分は、学校現場にもどり授業の中で生かしていきたいと思います。

那覇市立金城小学校 村吉博勝

7/14

「思考過程を表現する力を育てる指導の工夫」  
～「かく活動」を通して～  
5年3組 「ならした大きさ（平均）」



学習課題に取り組む時、自ら考えたことを整理し筋道立てて伝えられるのか。自らの思考の過程を「かく活動」を通して整理していく、見えない思考を見えるようにする指導の工夫に取り組んできました。

検証授業では、考えたことをいろいろな表現方法（絵・図）で表現させ、また、疑問や気づきをノートに書かせることで、自らの思考過程を見ることができ、また、友だちの考えに対し関心をもって聞くことができた。反省として、考えを表現させるための教師の発問や図や説明文を使いこなす力を判断しながら、どのように個に応じた「かく活動」をさせるのか。今後、現場に戻り、子どもたちが自らの考えを表現する力を高める実践に取り組んでいきたいと思います。

那覇市立松島中学校 高良奈緒子

7/13

「特別な支援を要する生徒への対応に  
視点をのいた授業展開の工夫」  
～国語科の授業実践を通して～  
2年3組 「神奈川沖浪裏」



学習活動に困難を抱える生徒が、活動に取り組みやすくなるための工夫として、「わかりやすい学習活動」を重視した工夫を授業展開に取り入れ、検証授業を行いました。

成果としては、教科書を揃えることも困難だった生徒が、授業の準備をすることが出来るようになったり、ノートを取ることに苦手な生徒がノートをまとめるようになったりと、学習活動に取り組む姿勢が見られるようになりました。また、全体的に落ち着いた雰囲気の中で、学習できるようになりました。

今後は教師主導ではなく、生徒の学習意欲を活かす授業展開の中でのわかりやすい授業の工夫・改善に取り組みたいと思います。

## 成果報告会

## 修了式

期日 9月30日(木)

時間 14:00~15:30

場所 1F 多目的ホール

3人の研究員から、これまで研究してきた内容や成果について1人20分間の報告があります。

期日 9月30日(木)

時間 16:00~17:00

場所 1F 多目的ホール

研究所における研究期間を修了するにあたり、修了証書を授与致します。

## 検証授業研究会

## 研究員の授業後の研究会



校長先生・教頭先生にも参加御協力いただきました。研究テーマ等に対しての検証を一つ一つ行います。



# 那覇市立教育研究所

所報第5号

平成22年9月 7日

那覇市金城3-5-3

所長 池間生子

## 夏期 授業実践講座・PC実践講座

期 日	講 座 名	講 師	参加人数
7月26日(月)	「社会科授業実践講座」	加藤好一	琉球大学准教授 23名
7月30日(金)	「算数科授業実践講座」	宮里 寧	神原小学校教頭 92名
8月 2日(月)	「読み聞かせ講座」	佐渡山美智子	フリースネットワーク主宰 90名
8月 4日(水)	「音楽科授業実践講座」	鶴渕信子	清涼少年少女合唱団指揮者 42名
8月 6日(金)	「感想画指導実践講座」	西村貞雄	沖縄県美術教育推進協議会役員 83名
8月 9日(月)	「国語科授業実践講座」	上運天洋子	沖縄女子短期大学教授 39名
8月11日(水)	「英語科授業実践講座」	比嘉俊博	那覇教育事務所指導主事 40名
8月13日(金)	「学級経営と特別支援」	大城麻紀子	石嶺小学校教諭 52名
8月16日(月)	「特別活動(学級経営)」	黒木義成	義務教育課義務教育班長 56名
7/26・7/30	「ホームページ作成講座」	上地弘美	興洋電子インストラクタ 36名
8/ 2・8/ 4	「パワーポイント活用講座」	上地弘美	興洋電子インストラクタ 42名
8/ 6・8/ 9・8/11	「Excel講座」	上地弘美	興洋電子インストラクタ 57名
8/13・8/16	「動画編集講座」	上地弘美	興洋電子インストラクタ 22名

たくさんの先生方のご参加ありがとうございました。  
学校の要望に応えられるような講座をこれからも計画していきたいと考えております。



詳しくはホームページをご覧ください。

敬称略

「社会科」	「算数科」	「読み聞かせ」	「音楽科」	「感想画」	「国語科」	「英語科」	「特別支援」	「特別活動」	「コンピュータ」
加藤好一	宮里 寧	佐渡山美智子	鶴渕信子	西村貞雄	上運天洋子	比嘉俊博	大城麻紀子	黒木義成	上地弘美

## 全国学力・学習状況調査結果分析説明会

【小学校 国語・算数】

平成22年8月19日(木)

パレット市民劇場

【中学校 国語・数学】

平成22年8月20日(金)

真和志庁舎(給劇劇場)



### 小学校 国語

国語Aの課題と手立て：前年度の課題であった「書くこと」の領域で全国平均を4.4ポイント上回ったが、一方で「読むこと」は6.6ポイントも差がついた。基礎基本の確かな定着のために各領域を効果的に関連づけ、言語活動を工夫した授業を心がけたい。

国語Bの課題と手立て：平成19年度から徐々に全国との差が縮まってきていたが、今年度は2.9ポイントの差がついた。B問題の出題の意図は児童にも教師にも理解されつつあるが、A問題同様、言語活動の工夫と、より計画的な授業作りを実践したい。



### 小学校 算数

算数Aの課題：「全体と部分の関係をつかむこと。」

算数Bの課題：「示された数値や条件の理解を徹底する。」

：「説明に必要な条件をもれなく示す。」 —— 「手立て」：説明に必要な事柄の整理と根拠の明確化を図る。

上記の課題を踏まえ、日々の授業改善での視点として「問題把握の徹底」と「表現活動の重視」を挙げることができます。2つの視点は、「子どもの気づき」をキーワードに進めていく必要があります。教師による説明の多い授業から、子どもたちに問題の条件を一つ一つ気づかせ、その子なりの表現を順序よくさせていくことが、授業改善に必要な取組となります。

「手立て」：答えを求めることを急がずに問題把握を徹底する。



### 中学校 国語

国語Aの課題と手立て：経年比較から見ると、国語Aについては、全国との差がなかなか縮まらない状況である。領域別では、言語事項に最も課題があり、8.4ポイントも差がある。漢字の書き、主述の関係など、言語事項に関わる知識と使い方などを、実生活との関わりの中で習得させたい。

国語Bの課題と手立て：B問題では、50%に達しない設問が、10問中3問あった。日々の学習において、記号選択や単語、文節等で答えられるような問いかけに偏ることなく、思考したことを文や文章で分かりやすく表現する活動を意識的に組み入れ、継続させたい。



### 中学校 数学

- ・数学Aについては、正答率が全国と10ポイント以上差のある問題が20問あった。特に数量関係が大きく落ち込んでいる。対応表、グラフ、式を関連づけて指導するとともに、数学用語についても指導を徹底する。
- ・数学Bについては、「説明する問題」での無解答が目立った。自分の考えを文字に表す指導が必要である。

以上ことをふまえて、「ノートの活用」を視点において授業改善を行ったらどうだろう。単に答えをノートの書くだけではなく、自分の考えをノートにまとめてみる、気づいたことや工夫したこと、他の人の考えとの違いを書いてみる、などノートを活用することで思考が整理されて、理解が深まり、ひいては「言語活動を充実」することにつながります。



